

人は誰でも自分を 認めてもらいたい



「50歳の誕生日プレゼント、何かほしい？」

そう親から尋ねられました。

洋服？ お花？ お酒？ ギター？ ゴルフ用品？

この年になって、物欲はあまりありません。

「では、手作りの色紙をください。それもただお祝いの言葉を一筆しただけではなく、色鉛筆で色を塗ったりシールを貼ったり、明るくカラフルに。そして、漢字二文字を贈る言葉として、そこに記してください」

で、それが、この色紙です！



父からは「尽力」 母からは「珠玉」

“引き続き、世のため人のため尽力して、珠玉の人生を歩んでください”
親である私たちは、それをいつまでも応援していますというもの。

50歳になった息子、うれしくて泣いています・・・(笑)

さて、私が50歳ということは、両親とは50年間の付き合い。
写真のとおり、親子円満です。

しかしずっと50年間、仲良し親子だったわけではありません。
反抗期もあり、親を泣かせたこともありました。高校卒業後、東京の薬科大学
に
進学したのは、今思えば、親の束縛を嫌い、親元を離れたかったから。
でも、離れたからこそ、親の有難さを知ることになります。

かの孔子は言いました。
『50にして天命を知る』

私の天命は、漢方を通じて悩める人たちを元気に幸せに導くこと。
自分の天命を知り、自信を持って今の仕事に従事しているのは、たぶん親から
自分が『認められている』『否定されていない』からです。

西洋医学が常識の世の中で、東洋医学の漢方はマイナーな存在であり、認知も
信用も需要も少ない。目立たない存在で、なかなか理解してもらえない。
患者だけではなく、医者からも「漢方？」 まだまだ疑いの目でみられる。

多くの人たちに、医療関係者に、自分が、自分の仕事が認められなくても
今まで頑張ってきたのは、親が、妻が、子どもが、そしてお客様が
私の仕事を認めてくれているからです。

心理学者マズローが唱えた学説があります。



人間には5段階の欲求がある。食欲を満たす生理的欲求から始まり、安全の欲求、自分の居場所を求める所属の欲求。そして人から認められ尊重されたいという承認の欲求。それを経て、自己実現の欲求、さらには自己超越の欲求と続く。

衣食住に困らない平成の今、生理的欲求と安全の欲求は満たされている人は多いですが、「所属と愛の欲求」「承認の欲求」には不満な人が多いようです。SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）はそれを満たす代表でしょう。

しかし、これだけ人と繋がる手段が発達しても
なかなか満たされない・・・自分に自信が持てない・・・
自分なんか価値がない・・・自分が好きになれない・・・
劣等感、孤独感、疎外感に苛まれている人たちは、実に多いです。
それはまた、うつ病や引きこもりやDVなどの根源になっていたりします。

なぜ、もっと人から認められたい、人とつながりたいと貪欲になるのか？

それは

「親から愛され、親に認められた」という経験が少ないからではないか？

家族という集団に属し、そこでお腹いっぱい食べれて、安心してぐっすり眠れて

たっぴりと遊べて。そしてそういう自分を無条件に親が愛してくれて、自分を認めてくれたなら、他人からの承認などそれほど必要としないのではないか。

50になった私が今、自分の軸がぶれることなく、主体的に生きていられるのは生まれてから社会人として自立するまで、生理的欲求から承認の欲求まで親が満たしてくれたからだと感謝しています。

今回その確認のための『承認の色紙』、書いてもらった次第です(笑)。

厳しく育った親は、我が子の要求を認めることを、「甘やかし」「過保護」と考えてしまうようです。

「なんでもかんでも欲求を認めていたら、子どもはどんどんワガママになってろくな人間にならない！」

もちろん、そうです。子どもの承認欲求を満たしてあげようと、欲しい物をなんでも買い与えていたら、それが当たり前となって「ろくでなし」になります。

承認欲求を満たすということは、モノではなく「心を満たす」ことです。

大人の常識や、世間体や、勝敗や当落の結果に基づかずに

「結果は残念だったけど、よく頑張ったね！」

子どもの失敗体験や挫折を、親がしっかり受け止めて肯定してあげること。

結果ではなく、その子なりの頑張りをしっかり認めてあげること。

親ならば、子どもに幸せになってほしいと願うもの。さらに自分の家族には「子孫繁栄」を願います。

しかし実際は、子どもや孫に親の価値観を振りかざし「ダメ出し」している。

「おまえは甘い！」「ほんとダメな子ね！」「おまえには無理！」

親よりも子どもが劣っているなら、必然の子孫「衰退」ですね。

家族に子孫繁栄を願うなら、子どもや孫たちは、親の自分以上に優れた可能性を持っている。その可能性を引き出し、世の中で必要とされる人物に育て上げる。

そのためには、親は子どもの存在価値を無条件に認める。そして、

「よくできたね！」「えらいね！」「大丈夫、必ずできるよ！」「大好きだよ！」

子どものやる気を引き出す言葉をかけてあげたいですね。

慣れない色紙作りの宿題に、一生懸命に頑張る両親。



息子の承認欲求満足度、120%です (^o^)/

もしあなたが今、承認欲求が満たされず、とても生きづらい思いをしているなら・・・

太田東西薬局が親代わりになって、あなたの承認欲求を満たし続けます。ビジネスではなく、『無償の愛』を持って。